


平成15年度 決算説明会

富士写真フイルム株式会社
平成16年4月30日

 本資料における業績予想及び将来の予測等に関する記述は、現時点で入手された情報に基づき判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。従いまして、実際の業績は、様々な要因によりこれらの注意 業績予想とは異なることがありますことをご承知おき下さい。

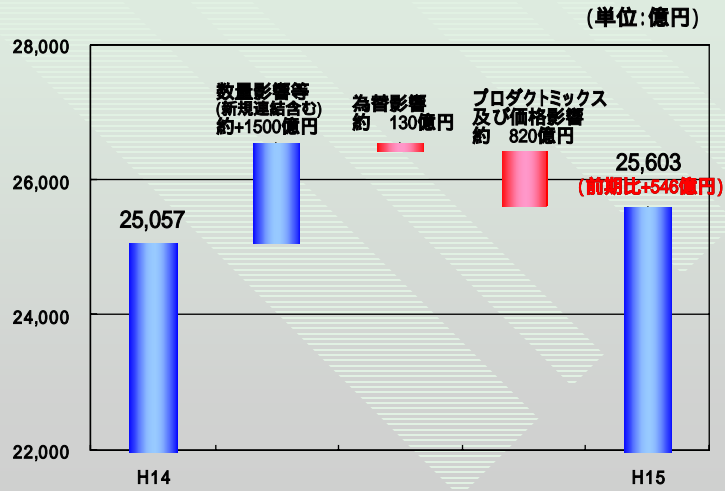
平成15年度 連結業績

業績概要

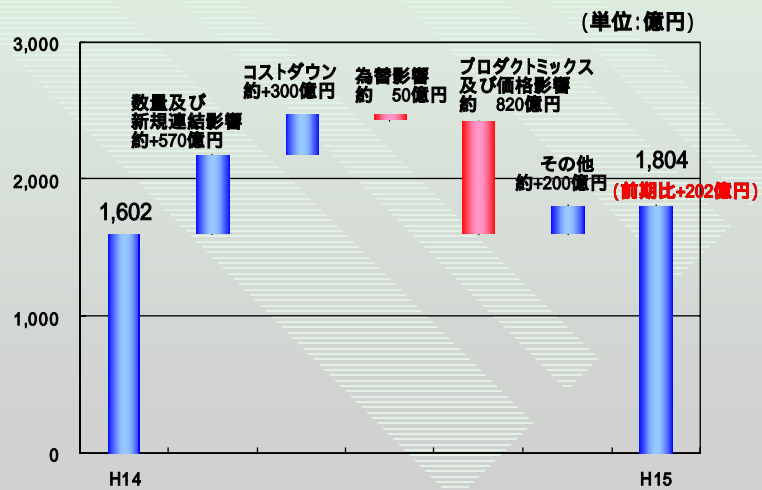
(単位: 億円)

	平成15年度		平成14年度		増減	
	割合	金額	割合	金額	金額	%
国内	52.2%	13,360	53.1%	13,301	+59	+0.4
海外	47.8%	12,243	46.9%	11,756	+487	+4.2
売上高	100.0%	25,603	100.0%	25,057	+546	+2.2
営業利益	7.0%	1,804	6.4%	1,602	+202	+12.6
税引前利益	6.4%	1,649	4.8%	1,205	+444	+36.9
当期純利益	3.2%	823	1.9%	485	+338	+69.4
為替:米ドル		113円		122円		-9円
ユーロ		132円		120円		+12円

売上高増減要因



営業利益増減要因



平成15年度 連結業績



事業別セグメント情報

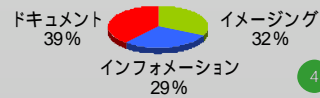
(単位:億円)

	平成15年度		平成14年度		増減	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	金額	%
イメージング						
売上高	8,165		8,314		-149	-1.8
営業利益	5.3%	435	6.8%	567	-132	-23.3
インフォメーション						
売上高	7,600		7,293		+307	+4.2
営業利益	10.0%	764	10.3%	752	+12	+1.5
ドキュメント						
売上高	→ 10,023		9,620		+403	+4.2
営業利益	6.1%	606	5.3%	514	+92	+18.1
消去						
売上高	-185		-170		-15	-
営業利益	-1		-231		+230	-
合計						
売上高	25,603		25,057		+546	+2.2
営業利益	7.0%	1,804	6.4%	1,602	+202	+12.6

厚生年金基金解散損 231億円含む。

富士ゼロックス、売上高 1兆円突破！

連結売上高の構成



4

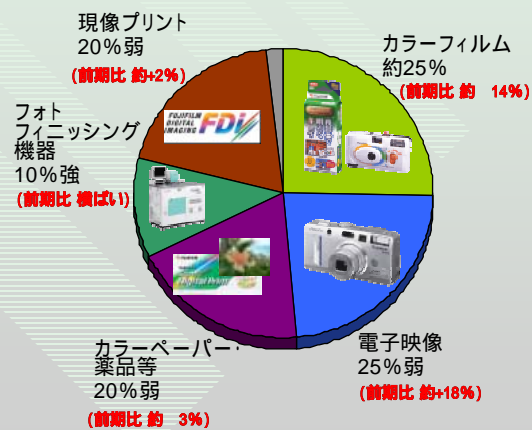
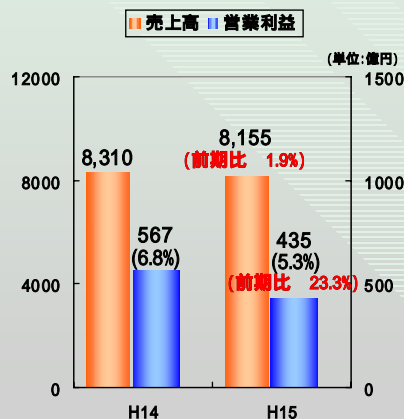
事業別セグメント情報



イメージングソリューション

売上高・営業利益

売上構成比



*セグメント間取引消去後

5

事業別セグメント情報

FUJIFILM

カラーフィルム



- ✓ さらなる高感度・高画質を実現した新製品を発売。
- ✓ レンズ付きフィルム「写ルンですNight&Day」が国内で販売好調。
- ✓ 国内販売は数量ベースで、前期比 約16%減、海外は約8%減。



「写ルンです Night&Day」

銀塩写真システムの更なる高画質化

～さらなる高感度・高画質化で『感じたままに美しく、人の目に近い表現力』を実現～

カラーネガフィルム
「SUPERIA Venus」



カラーリバーサルフィルム
「Velvia 100F」「Velvia 100」「ASTIA 100F」



用途・グレード感を分かりやすくした
「写ルンです」の新製品！

6

事業別セグメント情報

FUJIFILM

カラーペーパー・薬品等



- ✓ デジカメプリント「お店プリント」キャンペーンを推進。
- ✓ 国内販売は数量ベースで、前期比約6%減に、海外ではデジタルミニラボの販売増・新規顧客獲得の効果等により約4%増加。
(国内フロンティア店におけるデジカメプリント比率は、平均約23%まで上昇中。)



ライジング大作戦2年間の成果



ライジング大作戦2004

2004年は、テレビCMやお店でデジカメプリントを強力に訴求するとともに、デジタルミニラボや店頭受付機等のインフラをさらに強化します。

海外においても、北米・欧州を中心にデジカメプリントを推進しています。

7

事業別セグメント情報

FUJIFILM

フォトフィニッシング機器



売上構成 10%強
(前期比 横ばい)

- ✓ デジタルミニラボの販売台数は、約7,100台。北米を中心に海外でのデジタルミニラボの販売が好調。
- ✓ 赤目補正やキズ消し等の画像処理機能や操作性を向上させた新製品「フロンティア355/375」を発売。

デジタルミニラボの新製品



「デジタルミニラボ フロンティア355」

超・高画質デジタル画像処理ソフトウェア
「Image Intelligence™」搭載



Image Intelligence™ は、富士写真フィルム㈱の商標です。

8

事業別セグメント情報

FUJIFILM

電子映像



売上構成 25%弱
(前期比 約+18%)

- ✓ スーパーCCDハニカムHR,SR搭載の製品ラインアップを強化。
- ✓ デジタルカメラの販売台数は前期比 約36%増の625万台。
- ✓ デジタルカメラの国内営業機能を統合。
- ✓ 光学電子部品は、携帯メーカーへの供給が大幅増。
(カメラモジュール 100万個/月の生産体制を確立。)
- ✓ 富士フィルムマイクロデバイス、CCD生産能力を増強。



デジタルカメラ「FinePix」シリーズ



カメラ付き携帯向け
カメラモジュール



富士フィルムマイクロデバイス(株)
泉事業所(宮城県)

9

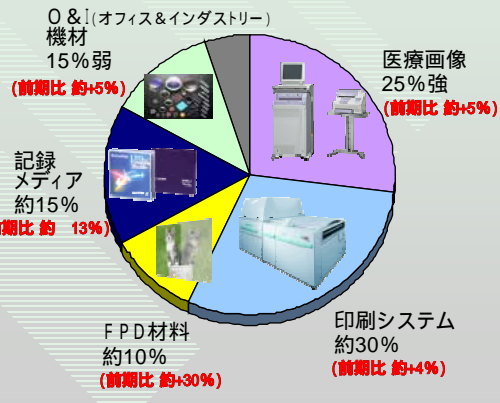
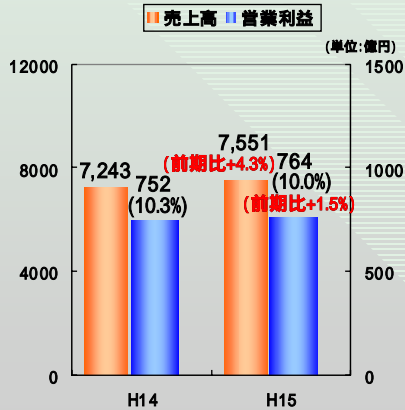
事業別セグメント情報



インフォメーションソリューション

売上高・営業利益

売上構成比



*セグメント間取引消去後

10

事業別セグメント情報



医療画像



- ✓ FCR製品のラインアップを拡充し、販売好調。
- ✓ 医療用画像情報システム「SYNAPSE (シナプス)」は、ワールドワイドで既に350ヶ所以上に導入済。
- ✓ 内視鏡の新製品が高い評価、順調にビジネスを拡大中。
- ✓ 国内の医療機材販売会社を統合。

FCR

電子内視鏡



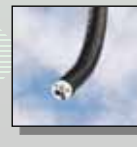
FCR PROTECT CS



FCR Speedia CS



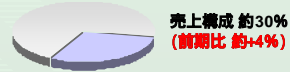
バルーン付電子小腸鏡



高画質電子内視鏡スコープ「490シリーズ」

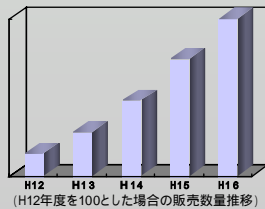
11

印刷システム



- ✓ 国内販売子会社として、富士フィルムグラフィックシステムズ(株)を設立。より市場に密着したマーケティング展開で増販推進中。
- ✓ 新アルミ表面処理技術「MGV(マルチグレインブイ)技術」により、印刷適性をさらに向上させたサーマルCTPプレート「HP-S」、フォトポリマーViolet CTPプレート「PN-V」をはじめ、CTP関連製品が販売好調。
- ✓ CTP・PSプレートの日本、米国、欧州、中国でのグローバル四極生産体制を強化。米国工場にCTPプレートの新塗布機を建設中。中国工場ではCTPプレート対応の新塗布機が稼働。

全世界における当社CTPプレートの伸び



新塗布機が稼働した富士星光有限公司(中国)

フラットパネルディスプレイ材料



- ✓ FPD材料事業の売上は、前期比約30%増の約730億円。
- ✓ FPD材料事業部及びFPD材料研究所を新たに設立。
- ✓ 2004年2月より液晶テレビ用新反射防止フィルムを、2004年3月より液晶テレビ用新視野角拡大フィルムを市場導入開始。
- ✓ 富士フィルムオプトマテリアルズ等、生産能力を増強中。

FPD材料事業の主要製品

1. 偏光板保護フィルム「フジタック」
2. 視野角拡大フィルム「WVフィルム」
3. 反射防止フィルム「CVフィルム」
4. カラーフィルター作製用フィルム「トランサーフィルム」

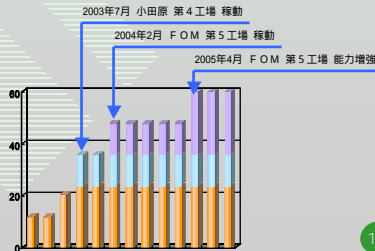
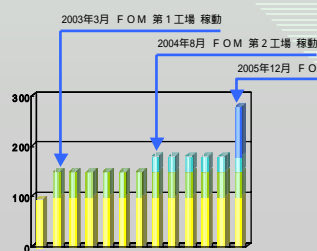
FPD材料の生産能力増強

- 2003/ 3 フジタック、富士フィルムオプトマテリアルズ (FOM) にて新工場 (第1工場) が稼動。
- 2003/ 7 WVフィルム、小田原工場にて新工場 (第4工場) が稼動。
- 2004/ 2 WVフィルム、FOMにて新工場 (第5工場) が稼動。(生産能力 48百万㎡/年に)
- 2004/ 8 フジタック、FOMにて新工場 (第2工場) が稼動予定。
- 2005/ 12 フジタック、FOMにて新たに2工場 (第3/4工場) が稼動予定。(生産能力 280百万㎡/年に)



フジタックの生産能力

WVフィルムの生産能力



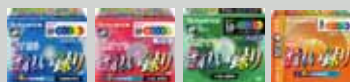
記録メディア



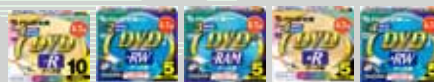
- ✓ データストレージテープの競争激化する中、LTO Ultrium 2 が販売好調。
- ✓ ナノキュービック技術の採用製品第1号として、IBM TotalStorage® Enterprise Tape Drive 3592用データカートリッジを開発、供給開始。
- ✓ DVDレコーダーの普及にあわせ、DVDメディアのラインアップを強化。
- ✓ 独自の有機色素により、1倍速～16倍速記録 DVD-Rを実現する光ディスク技術を新開発。

DVDメディアの製品ラインアップ

for VIDEO



for DATA



LTO, Ultriumは、Certance社、Hewlett-Packard社及びIBM社の米国およびその他の国における登録商標です。
TotalStorage は、IBM Corp.の米国およびその他の国における登録商標です。

事業別セグメント情報



オフィス&インダストリー機材



- ✓ カメラ付き携帯向けレンズユニット等のレンズ・光学機器が好調。
- ✓ 非球面成型レンズの生産能力を増強。
- ✓ 富士写真フィルムと富士ゼロックスのコラボレーションで「デジタル・ドキュメント・アーカイブ・サービス」を開発中。



「デジタル・ドキュメント・アーカイブ・サービス」
オフィスにある富士ゼロックス製のデジタル複合機を紙文書を取り込むポータルとして位置付け、ネットワーク環境を利用して、長期・安全保存が求められる文書をマイクロフィルムへ変換する、両社ならではの新興型のサービスビジネスです。

富士写真光機の高度な光学技術

- 世界最高精度での平面度測定を実現した大口径平面度干渉計を産業技術総合研究所に納入。
- 放送用レンズで世界初！オートフォーカスシステム搭載のハイビジョン用ズームレンズをNHKと共同開発。



放送用レンズ「DIGI POWER101」

16

事業別セグメント情報

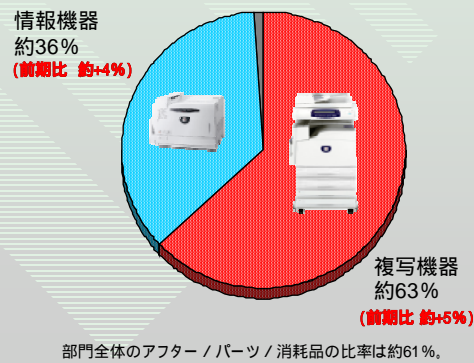
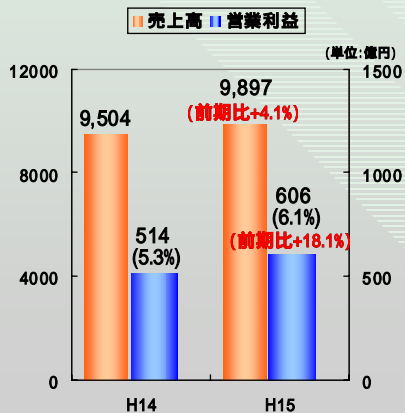


ドキュメントソリューション

富士ゼロックスでの売上高が1兆23億円となり、企業活動のひとつの目標であった売上高 1兆円を達成！

売上高・営業利益

売上構成比



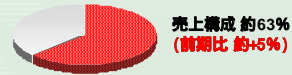
*セグメント間取引消去後

17

事業別セグメント情報

FUJIFILM

複写機器

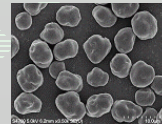


- ✓ **国内ではカラー複合機が大幅に伸長。**
知的複合機「DocuCentre Color」新シリーズ を発売。3月度には1万2千台販売するなど、カラー複合機の販売台数が4Qで前年比70%増、通期でも30%増加。
従来の複合トナーを大幅に改修した「EA-HGトナー」を採用し、高画質と高速化を追求。
- ✓ **欧米向けの輸出も大幅に増加。**
主力のカラー複合機出荷台数が50%増、白黒を含めた合計でも60%増加。
- ✓ **中国を含むアジア・オセアニア地域でも拡大**
当地域でもカラー複合機の販売台数が35%増加。
デジタル化が加速した中国では、現地開発の普及型白黒デジタル機が主力となって販売を伸長。

新製品

デジタルフルカラー複合機
「DocuCentre Color」新シリーズ発売

「DocuCentre Color f450/f360/f250」
「DocuCentre Color a450/a360/a250」



EA-HGトナー

18

事業別セグメント情報

FUJIFILM

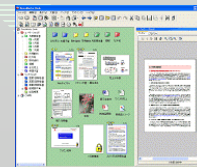
情報機器



- ✓ **情報機器売上が4%増加。**
高速・高画質で環境に配慮した省エネルギー設計のカラーレーザープリンター「DocuPrint C2425/C2426」を発売し、ラインアップを強化。
富士通(株)から買収した連帳プリンター事業が着実に売上に寄与。
米国Dell社とプリンター事業における技術パートナーシップを締結。
1998年9月発売の文書管理ソフトウェア「DocuWorks」が、累計で100万ライセンスの販売を達成。
ソフトウェアは、複合機と連携するソリューションには不可欠であり、今後もソフトウェアサービスの強化によってドキュメント事業を下支えする。

国内レーザープリンター主力製品

カラーレーザープリンター
「DocuPrint C2426」



DocuWorks 5.0

19

連結業績

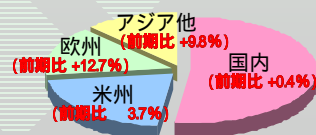
(単位:億円)

	平成16年度予想		平成15年度実績		増減	
					増減額	%
売上高	100.0%	26,800	100.0%	25,603	+1,197	+4.7
営業利益	6.1%	1,640	7.0%	1,804	-164	-9.1
税引前利益	5.7%	1,540	6.4%	1,649	-109	-6.6
当期純利益	3.1%	825	3.2%	823	+2	+0.2
為替:米ドル		108円		113円		-5円
ユーロ		128円		132円		-4円

国内・海外別売上高

(単位:億円)

	平成15年度		平成14年度		増減 %
	構成	金額	構成	金額	
国内	52.2%	13,360	53.1%	13,301	+0.4
海外					
米州	21.2%	5,419	22.5%	5,628	-3.7
欧州	14.7%	3,760	13.3%	3,337	+12.7
アジア他	11.9%	3,064	11.1%	2,791	+9.8
計	47.8%	12,243	46.9%	11,756	+4.2
合計	100.0%	25,603	100.0%	25,057	+2.2



所在地別セグメント情報

(単位:億円)

		平成15年度		平成14年度		増減	
						増減額	%
日本	売上高	19,588	18,981	+607	+3.2		
	営業利益	7.4% 1,456	7.7% 1,458	-2	-0.2		
米州	売上高	4,658	4,943	-285	-5.8		
	営業利益	1.7% 78	3.9% 193	-115	-59.5		
欧州	売上高	3,072	2,774	+298	+10.7		
	営業利益	5.0% 152	4.1% 112	+40	+35.6		
アジア他	売上高	2,427	2,465	-38	-1.5		
	営業利益	5.6% 136	3.6% 89	+47	+52.7		
消去	売上高	-4,142	-4,106	-36	-		
	営業利益	-18	-250	+232	-		
合計	売上高	25,603	25,057	+546	+2.2		
	営業利益	7.0% 1,804	6.4% 1,602	+202	+12.6		

厚生年金基金解散損 231億円含む。

設備投資、減価償却費、研究開発費

(単位:億円)

	H16年度 (予)	H15年度		H14年度	
		第4四半期	第4四半期	第4四半期	第4四半期
イメージング	-	134	491	127	439
インフォメーション	-	231	827	189	587
ドキュメント	-	140	289	90	247
設備投資	1,600	505	1,607	406	1,273
イメージング	-	145	594	157	658
インフォメーション	-	146	549	141	475
ドキュメント	-	156	583	152	607
減価償却費	-	447	1,726	450	1,740
有形固定資産の減価償却費	1,250	325	1,246	343	1,267
研究開発費	1,800	440	1,733	414	1,591
<売上高比>	6.7%	6.7%	6.8%	6.7%	6.3%

ドキュメントソリューション部門のレンタル機器を除く。

為替

(単位:円)

	H15年度					H14年度				
	1Q	2Q	3Q	4Q		1Q	2Q	3Q	4Q	
米ドル	119	118	109	108	113	127	120	123	119	122
ユーロ	133	133	130	133	132	116	117	121	126	120

外国人持株比率

	H16.3.31	H15.9.30	H15.3.31
持株比率	44.2%	44.4%	40.3%

期末人員

(単位:名)

	H16.3.31	H15.9.30	H15.3.31
単独	9,363	9,410	9,392
連結	73,164	73,646	72,633

